舟渡小☆コミュニティ・スクールだより

令和5年度　第5号
板橋区立舟渡小学校
校長　桝田　佳江
令和6年3月22日

第５回　板橋区コミュニティ・スクール（ｉＣＳ）委員会　ご報告

令和５年度　第５回コミュニティ・スクール委員会を開催しましたので、以下のとおりご報告いたします。
また、本号では、今年度の成果と課題も併せてご報告いたします。今年度も、大変お世話になり、ありがとうございました。

開催日時：令和６年２月２０日（火）
　　１５：００～１６：３０
場　所　：舟渡小学校　コミュニティルーム
次　第　：　　司会　髙橋　慶太　様
（１）校長あいさつ
（２）ｉＣＳ委員長あいさつ
（３）今年度の振り返り
・学校の教育活動、及び、地域の行事全般
・懸案事項検討（スクールゾーンにおけるバリケード撤収の可否について）
（４）第４回ｉＣＳ熟議を受けて
・学習ボランティア部活動化
・子ども食堂
・コミュニティカレンダーの提案
（５）熟議『ｉＣＳを受けてすぐに実践できることはあるか』
※当初「来年度、舟渡小ｉＣＳに望むこと」について熟議の予定でしたが、（４）の案件が大きく、かつ、実施の可否について意見が多く出たため、急きょテーマを変更して実施しました。
（６）ｉＣＳアドバイザー　香月　よう子　様から指導・講評
（７）委員／オブザーバーの皆様より

今回参加いただいたオブザーバーの皆様

本校の教育活動にご協力いただき、ありがとうございます。

・一般社団法人きてきて先生プロジェクト代表理事	香月よう子　様
・地域教育力推進課　地域連携係	笹澤　沙季　様
・元校長、地域コーディネーター	安藤　吉高　様
・元校長	本間　信治　様
・地域コーディネーター	江藤　睦実　様
・はぁもにぃ保育園　園長	山下真由美　様

「振り返り」から「意見交換」へ　※今回の熟議としました。

◎令和６年度は、大きな提案が７件ほど教員や児童から出され、実践に移し、成果を出すことができた。
◎新型コロナウイルスが第５類になり、４年ぶりに様々な行事が復活した。（学校行事も地域行事も活性化した。）
◎保育園交流、中学校交流を盛んに行うことができた。
◎ｉＣＳで熟議したことをすぐに行動に移し、成果や課題を見取ることができた。
・【トライアル】子ども食堂
・コミュニティカレンダー準備（ＨＰ化）
△出前授業や授業支援を行うにあたり、学校側（＝学年の先生方）の動きが鈍い、と感じることがあった。
→どの教員が何年生担任になっても、カリキュラムが進むように地域本部データ管理に一層力を入れ、仕組み作りを更に充実させる。
△舟渡の地域は大きな道路に面しており、かつ、大型車両が多いため、バリケードは引き続き使用したい。今年度スケジュール調整は難しいが、来年度早々に区と話し合いの機会を設けたい。

ｉＣＳ熟議を受けての活動　その１　～子ども食堂～

トライアル実施として、地域の方が中心となり朝バージョン、夕方バーションの各２回、計４回実施をした。
朝：３月４日（月）、１１日（月）　7:20～ 8:00
夕：３月７日（木）、１４日（木）16:30～18:00
★朝バージョン実施のねらい
土日明けの月曜日、規則正しく朝ご飯を食べて、登校時間に間に合うように登校しよう。
★夕方バージョン実施のねらい
学びのエリア志村第五中学校の生徒さんの力を借りて、勉強をした後に、おしゃべりをしながら交流しよう。
★地域からの願い
舟渡小卒業生をはじめ、地域の方には会社の社長さんや社員さんなど様々なキャリアの方がいらっしゃいます。そのような方とお話をすることで、広い意味でのキャリア教育につなげていきたい。
★参加児童とのお約束
・できることをお手伝いしよう。（食器洗い、机拭き、など）
・心を込めて「ありがとう」を伝えよう。

協力：せんごく

協力：NPO法人シンフォニア

ｉＣＳ熟議を受けての活動　その２　～コミュニティカレンダー　舟っ子サポートＨＰ～

香月よう子ｉＣＳアドバイザーより紹介していただいたコミュニティカレンダー、舟渡地域版のひな形を作成しました。これは地域コーディネーターが中心となって更新をしていきます。
★地域コーディネーターの願い
・地域の方の新たなリクルーティングの役割を果たしたい。
・もっと気軽に学校のサポートをしてもらいたい。
・人が集まってくるＨＵＢの役割を果たせないだろうか。
こちらもまだトライアルの段階ですので、少しずつ内容を充実させ、来年度には広報委員会の児童と一緒に活動できたらと思っています。

香月よう子iCSアドバイザーより　ご指導ありがとうございました！

舟渡の地域は、ｉＣＳ、学校支援地域本部を含めて地域が出来上がっているので、それをぜひ『見える化』していきましょう。そのためにコミュニティカレンダーの提案をしたのですが、すでにひな形ができていて驚いています。これは、まさに人材確保のために有効な手段です。
子ども食堂に対する思いも、地域一人ひとりに伝えていくことが大切であり、伝える係がｉＣＳ委員の１つの役割であると考えます。
今回、話し合いの中で熟議のテーマは変わりましたが、まさしく真の熟議であったように思いますし、学校、ＰＴＡ、地域などそれぞれの立場の方の思いを知ることができました。